



# ニッポン ドクター和の 臨終図巻

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

〈アヴェ・マリア〉 〈アメイスング・グレイス〉 〈さとうきび畑〉 〈荒城の月〉…。今、『マイフェアバレット・ソングス』という名のついたCDアルバムを聴きながらこの原稿を書いています。

古今東西どんな曲であっても、その豊かな表現力で自分の歌にしてしまう。魂に響く歌声とは、まさにこの人の声を云うのでしよう。

この美声の主が、突然いなくなってしまう。日本を代表する美貌のオペラ歌手・佐藤しのぶさんが、9月29日に亡くなりました。享年61。しかし、死因は発表されていません。佐藤さんは私と同じ、1958年の夏生まれ。面識はなくとも、同じ年に生まれた人が亡くなるのは、なんともせつない気持ち

## 128 オペラ歌手 佐藤しのぶ



# 揺るぎなき永遠性を得た歌姫

「なせ死んだのだ？」というところまで。

他人の死因など、自分に直接は関係のないことなのに、WHYを知りたがるのが人間の性でしょう。

しかし、昨今、死亡の発表はあっても、死因はあえて公表しない、というケースがだんだん増えてきているように感じています。

死因とは、とてもプライベートなもの。発表しない人には、それぞれの理由があるようです。がんの場合は、遺伝という視点から、子どもの将来のリスクを考えての場合もあるようです。

認知症の場合は、悲しいかな未だ世間体を考えるご家族も多くなります。自殺の場合も、突然死とだけ伝えることも多いでしょう。いずれにせよ様々な病に對し偏見のある社会が問題なのですが、その問題を払拭するため、私もこの連載を書かせて頂いているようなものです。

しかし、佐藤さんの場合はまた違う理由のように感じます。

亡くなる5日前、「体調不良のため、10月から来年1月までのコンサート出演をとりやめる」という活動休止の発表がありました。

これは私の勝手な推測ですが、自分の闘病や死因を明かすことによって、自分の歌声が、聴く者に違う印象を与えてしまうことを避けたかったのではないのでしょうか。

オペラ「椿姫」や「蝶々夫人」でも主演を演じ、世界的な評価を得ていた佐藤さん。自分の物語よりも、歌の中の物語を尊重されたの決断でしょう。死因を伏せたからこそ、歌姫の存在は、揺るぎなき永遠性を得たようにも思えます。

余談ですが、私が死んだときは誰にも知らせないつもりです。「そいえば、最近あの医者、おらんね」と言われて終わるのが理想です。